

船舶事故調査報告書

令和2年7月8日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（令和元年6月22日 20時00分ごろ～26日11時45分ごろの間）
発生場所	不明（広島県広島湾）
事故の概要	プレジャーボート ^{ゆういち} 友一丸 ^{ツー} Ⅱは、漂泊中、船長が落水して溺死した。
事故調査の経過	令和元年7月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 友一丸Ⅱ、0.5トン HS3-43761（漁船登録番号）、個人所有 5.17m(Lr)×1.67m×0.64m、FRP ディーゼル機関、29.4kW、昭和61年11月28日 第270-31468号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 43歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成8年4月26日 免許証交付日 平成29年6月20日 (令和4年6月19日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北東、風速 7m/s、気温 約22℃ 海象：海上 平穏、水温 約23℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、釣りの目的で、令和元年6月22日18時00分ごろ広島県広島港の係船場所を出航した。 同乗者は、広島県広島市 ^{とうげ} 峠島北方沖において漂泊して船長と共に釣りの準備中、船尾で錨の準備を行っていたところ、20時00分ごろドボンという音を聞き、船長が落水したことに気づいて、救助しようとしたが発見できず、20時24分ごろ118番通報した。 船長は、海上保安部の巡視艇及び広島市消防局の消防艇が捜索を行

	<p>い、26日11時45分ごろ、広島県江田島市安渡島^{あんどしま}北東方沖で、周辺海域を通りかかった旅客船に救命胴衣が未着の状態で漂流しているところを発見された。</p> <p>船長は、巡視艇により揚収された後、医師により死亡が確認されて、溺死と検案された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	船長は、本事故当時、固型式の救命胴衣を着用していた。
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	不明 不明 不明 船長は、溺死した。 本船は、峠島北方沖で漂泊中、船長が落水したものと推定されるが、同乗者から情報を得ることができず、その状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、夜間、本船が、峠島北方沖で漂泊中、船長が落水して溺水したことにより発生したものと推定される。
再発防止策	今後の同種事故等の被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型船舶に乗船するときは、救命胴衣が脱げないようにファスナーや紐を確実に締めて着用すること。

付図1 事故発生場所概略図

